




# 図書館活用実践（授業実践）

西有馬小学校 福山里加

学年・教科「単元名」（時間）	4年生・国語「ごんぎつね」（単元の最後）
<p>ざっくりした授業の流れ</p> <p>「ごんぎつね」単元の最後に、読書の幅を広げるねらいで行った。</p> <p>挿絵を描いている、かすや昌弘さんの描きおろし絵本も紹介</p> <p>図書館で「新美南吉さんの本を探すには？」⇒請求番号から9類の本棚、作者目の頭文字、別置を紹介</p>	<p><b>授業のねらい</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ごんぎつね」の舞台となった場所や、作者・新美南吉の生い立ちを知ることを通して、作品への見方を深める。</li> <li>・新美南吉に関するブックトークを聞くことで、同一作者の他の作品へ興味をもてるようにする。</li> </ul> <p><b>授業の流れ</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新美南吉クイズで作者に興味をもつ。              「ごんぎつね」を書いたのは18歳。29歳で喉の病気で病死。14歳～死ぬまで1500作品作った。その内のひとつ、60年前から教科書に掲載されている（たくさんの人に読み継がれている）「ごんぎつね」について。</li> <li>2. 「ごんぎつね」の舞台をDVD（自作）で視聴する。</li> <li>3. 新美南吉の生い立ちにせまるDVD（自作）を視聴する。              ⇒「ごんぎつね」の登場人物「ごん」「兵十」と南吉の共通点を探す              ⇒作者を知ると作品への見方も変わる、深まる。他の作品はどうだろう？</li> <li>4. 他の作品のブックトークを聞き、図書室から本を探して読む。              ・4冊紹介。「でんでんむしのかなしみ」「がちょうのたんじょうび」「赤いうそく」「新美南吉童話集」</li> </ol>    
<p>使った学校図書館の機能</p>	<p>50インチテレビ、DVDプレーヤー、拡大提示装置、ホワイトボード、ミニテーブル、ブックスタンド、図書館案内図、サイン、請求記号、別置</p>
<p>選書の工夫、どんな本を使ったか</p>	<p>基本図書館にある本、学年文庫「てぶくろをかいに」40冊、新美南吉幼年童話集10冊（半田市教育委員会）＊平仮名で書かれ本が苦手な児童でも読める</p>
<p>情報活用能力のどの力をねらったか</p>	<p>あつめる力（自分で本棚へ探しに行く）</p>
<p>実践した感想・その他</p>	<p>司書教諭として、4年生4クラスの児童に向けて授業を行った。校内の職員に授業公開し、「読書活動の手立て」として研修することもできた。</p>

